

黒川弘毅——彫刻／触覚の理路

Kurokawa Hirotake: Sculpture/Haptic Passage

MAU M&L

Musashino Art University Museum & Library

Press Release 2022.8.25



図版1. 《Eros No.102》2022年 ブロンズ
91.5×44.0×19.0cm 作家蔵 撮影：山本糾

会期:

2022年10月24日(月)

- 11月20日(日)

会場:

美術館展示室2・4、

アトリウム1・2

時間:11:00 - 19:00

(土・日曜日、祝日は10:00-17:00)

休館日:水曜日

入館料:無料

主催:武蔵野美術大学 美術館・図書館

協力:武蔵野美術大学彫刻学科研究室

※新型コロナウイルス感染症の状況により、
会期・時間を変更、あるいは予約制を導入
する場合があります。ご来館に際しては
最新情報をwebサイトでご確認ください。

※10月28日(金)は芸術祭開催にともない、
10:00-17:00の開館となります。

武蔵野美術大学 美術館・図書館では展覧会「黒川弘毅——彫刻／触覚の理路」を開催します。

本展は、武蔵野美術大学彫刻学科で教鞭を執ってきた彫刻家・黒川弘毅の退任を記念し開催される展覧会です。「触覚を物体の表面に向けられた感覚と見なすのは誤りである。触覚は微細で馴染みのないものを遠く隔たった場所で感知する。それは彼方のものへ向かいつつそれ自身が目指すものとなって内側で自らを隔てる」*と語る黒川は、立ち現れてくるものの実在性や物質性、そして触覚に対する思索を巡らせながらこれまで作品制作を続けてきました。

原型はなく鑄型だけを用いるという独自の手法によってブロンズ作品を生み出してきた黒川の、《SIRIUS》から始まる七つのシリーズの主要な作品約240点を、本展では余すことなく展示します。また試行錯誤の様子が見て取れる学生時代の具象作品、さらには《Eros》シリーズの最新作も出品いたします。

膨大なヴォリュームの作品群を通して、黒川の最初期から現在に至るまでの50年におよぶ思索の軌跡を辿り、彫刻作品が持つ量塊・物質の感触やその実在性をあらためて体感する機会となれば幸いです。

*『20ste Biennale Middelheim-Japan/Japanese Contemporary Sculptures』(1989年)カタログより

【同時期開催】

・「AGAIN-ST ルーツ／ツール 彫刻の虚材と教材」

2022年10月24日(月) - 11月20日(日)、12月5日(月) - 12月24日(土)

・民俗資料室ギャラリー展示30 「民具のデザイン図鑑—くらしの道具から読み解く造形の発想」

2022年10月24日(月) - 11月20日(日)、12月5日(月) - 12月24日(土)

作品について

1980年代初頭から始まる黒川の七つのシリーズの全作品から、黒川自身が本展に合わせて出品作品を選んだ自選展です。

黒川作品における源初的な《SIRIUS》、それに続く《Hekate》《Benne Bird》シリーズの作品は展示室内の壁面に設置され、来場者は彫刻作品に囲まれた空間に立つこととなります。また、ブロンズの溶湯が凝固してできた鑄塊を削り出して現出させる《Moon Fish》《Spartoi》《Golem》シリーズ、そして溶けて光を放つブロンズを人型に掘った鑄型に流し込み誕生させた《Eros》。これらの作品はレンガや大理石状の床面のアトリウム空間と展示室に整然と並びます。地面から、あるいは空間から現出してきたような作品群の間を歩くことで、作品の息吹を間近で感じられるような構成です。



図版2. (左) 《Golem No.8》1984-85年 ブロンズ 33.0×22.5×21.5cm、
(右) 《Golem No.9》1984-85年 ブロンズ 28.0×37.0×21.0cm
東京国立近代美術館蔵 撮影：山本紉



図版3. 《Spartoi No.21》1986-88年 ブロンズ
39.5×56.0×25.5cm MTM コレクション 撮影：山本紉



図版4. 《Moon Fish No.1》1983年 ブロンズ
14.0×140.0×16.0cm MTM コレクション 撮影：山本紉



図版5. 《Benne Bird No.2》1981年 ブロンズ
62.5×56.5×33.0cm ケンジタキギャラリー蔵 撮影：山本紉



図版6.《Hekate No.9》1983-86年
ブロンズ 161.0×21.5×32.0cm
宇都宮美術館蔵 撮影：山本紉



図版7.《SIRIUS No.3》1979-80年 ブロンズ
95.5×87.5×5.0cm 作家蔵 撮影：山本紉



図版8.《人体像》1976年 ブロンズ
100.0×32.5×32.0cm 作家蔵 撮影：山本紉

作家紹介

黒川弘毅(くろかわ・ひろたけ)

彫刻家／武蔵野美術大学 造形学部彫刻学科教授

1952年 東京生まれ。1977年 東京造形大学造形学部美術学科彫刻専攻卒業(1979年まで同研究室にて、研究生として在籍)。1991-92年 文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリア・ミラノへ留学。2003年 武蔵野美術大学 造形学部彫刻学科教授。

1980年 榎の木画廊で初めての個展を開催して以降、『もの派とポストもの派の展開：1969年以降の日本の美術』(1987年 西武美術館)、『20ste Biennale Middelheim-Japan/Japanese Contemporary Sculptures』(1989年 ミデルハイム野外彫刻美術館)、『現代美術への視点：形象のはざまに』(1992年 東京国立近代美術館/国立国際美術館)、『The 8th TRIENNALE INDIA 1994』(1994年 ラリットカーラ・アカデミー)、『第3回光州ビエンナーレ』(2000年 光州市立美術館)など、国内外で数多くの展覧会に参加。現在まで一貫してブロンズによる彫刻を手掛けている。また、近代彫刻研究、ブロンズ彫刻の専門家として、屋外彫刻の修復・保存にも携わる。

お問い合わせ先：

武蔵野美術大学 美術館・図書館

東京都小平市小川町 1-736

phone: 042-342-6003

fax: 042-342-6451

<https://mauml.musabi.ac.jp/museum/>

広報担当 mail: prmsm@musabi.ac.jp

プレス用図版をご希望の方へ：

- ・下記の事項をご参照の上、ご希望の図版番号と、必要事項をEメールにてお知らせください。(お名前、ご所属、電話番号、Eメール、媒体名、掲載号、発行予定日、コーナータイトル)
- ・図版番号のご指定がない場合は、図版1をお送りします。
- ・指定のクレジット(作家名・作品名・所蔵等)を必ず明記してください。
- ・原則的には図版のトリミング、部分使用、文字載せはご遠慮ください。
- ・掲載内容確認のため、発行前にPDF等で原稿をお送りください。
- ・紙媒体は掲載見本のご寄贈(掲載ページのPDF可)、ウェブ媒体は掲載ページのURLお知らせをお願いします。